

帯広市ものづくり総合支援補助金 活用事例集

～補助金を活用して製品開発・販路開拓を行った5社に聞きました～

【掲載企業】

鎌田商事株式会社北海道支店
有限会社ジーアールカンパニー
有限会社イフ
北裕建設株式会社
株式会社アクト

① 鎌田商事株式会社北海道支店

<年度> 平成 21 年度

<事業名> とかちマッシュの販路開拓

<きっかけ>

もともとだしの原料としてきのこの旨みに注目しており、十勝に最も適したきのこは何かを探していました。そしてマッシュルームは堆肥培地に生えることが分かり、さらに堆肥の原料として馬厩肥と麦わらが最適と知りました。ここ十勝は日本一の小麦産地、そしてばんえい競馬場があるという、日本唯一の場所でした。いざ栽培してみたところ、だしの原料にするにはもったいないほど良質のマッシュルームができ、できれば生のままでもお届けしたいと考えました。

<内容>

平成 21 年 3 月に販売を開始しましたが、平成 21 年 6 月から補助金を使った事業として、販路拡大を図るため、帯広市内や札幌のスーパーマーケットでの試食イベント、東京での食品関連展示会への出展を行いました。

商品名は「とかちマッシュ」。世界唯一のばんえい競馬の馬の敷ワラから作った堆肥と、清流札内川の伏流水を使い、農薬や化学肥料を一切使わず育てた美味しく安心・安全なマッシュルームであることをウリに、道内有数のマッシュルーム生産者として販路拡大に臨みました。

<成果>

試食イベント、展示会では大変好評を得ることができ、徐々にスーパーマーケット等での取扱いもしていただけるようになってきました。平成 21 年度から平成 22 年度にかけて取引先、取引量ともに順調に推移し、今では道内や東京の高級レストラン様とのお取引もあります。



【総務部 大野真孝さん の話】

現在マッシュルームの主な産地は岡山県や千葉県ですが、冷涼な気候と最適な堆肥栽培といった生産条件での差別化を訴求し、販路を拡大していきたいと思っています。

また、より安定した収益に結びつけるため応用加工品としてマッシュルーム入りのきのこのつくだ煮風製品を販売し始めたところですが、今後はマッシュルーム関連商品の開発、加工にも力を入れていきたいと考えています。

(企業情報)

名称：鎌田商事株式会社北海道支店

事業内容：醤油関連商品、マッシュルーム、ウォーターサーバー販売

住所：帯広市西 20 条北 2 丁目 25-2

設立：1994 年 1 月

代表者：常務取締役 鎌田武雄

資本金：1,000 万円

従業員数：9 名(北海道支店)

電話 0155-38-5002

FAX 0155-38-5003

Eメール info@kamada.co.jp

URL <http://www.kamada.co.jp/>

② 有限会社ジーアールカンパニー

<年度> 平成 20 年度、平成 21 年度

<事業名> エゾ鹿角を原材料とした製品の開発（平成 20 年度）
エゾ鹿角を原材料とした製品のブランド化を含めた
販路開拓（平成 21 年度）



<きっかけ>

十数年前より良くアメリカへの買い付けに行っていた際に、カウボーイやインディアンの文化を見ておりましたが、エゾシカと結びつけて何か商品化できないかと、以前から構想はありました。しかし資金と時間の問題もあり、なかなか実現しませんでした。新聞でこの補助金のことを知り、応募したのがきっかけです。

<内容>

毎年多数駆除されるエゾシカを一つの地域資源ととらえ、エゾシカの有効活用のため、補助金を使って鹿角を原材料とした装飾品やシャンデリアなどの加工製品を開発。エゾシカを単なる駆除対象ではなく、地域資源としての付加価値化を目指しました。翌年は、開発された製品のブランド展開と広告宣伝を行い、販路開拓を図りました。

<成果>

雑誌掲載及びホームページでの広告宣伝の効果のおかげで、東京を中心に飲食店、服飾店舗、美容室、個人住宅など幅広い方面に渡るニーズを発掘することができました。平成 21 年 6 月に最初の 1 台を販売して以来注文が来るようになり、販路拡大につながりました。



【代表取締役 森井英敏さん の話】

エゾシカは北海道にしかない動物です。このシャンデリアなどの製品を通じて、北海道の雄大さや自然の包容を感じてもらいたいとの想いで制作しています。

今は人手の問題もあり増産はできませんが、今後はオプションパーツなどで製品バリエーションを増やししながら、いずれは中国などの海外へ展開していきたいと考えています。

（企業情報）

名称：有限会社ジーアールカンパニー

事業内容：衣料、衣料雑貨、日用品の販売、シカ角関連製品の製造、販売

住所：帯広市緑ヶ丘 1 条 2 丁目 7-1

設立：平成 9 年 3 月

代表者：代表取締役 森井 英敏

資本金：300 万円

従業員数：3 名

電話 0155-25-5583

FAX 同上

Eメール gr.deer.2003@goo.jp

URL <http://www.gr-company.com/>

③ 有限会社イフ

<年度> 平成 20 年度

<事業名> 自動車用乗降用補助装置“サイドサポートシート”の開発・製品化（平成 20 年度）

<きっかけ>

身近に体の不自由な方がいて、車の乗降に苦労しているのを見ていました。もともとレーシングカーを製作していたので、その技術を活かして、自分達で福祉車両を作れないかと思ったのがきっかけです。



<内容>

補助金では、高齢者や身体障害者がスムーズに自動車の座席へ乗り移ることができるよう、その動作を支援する補助椅子「サイドサポートシート」を開発しました。不特定多数の車両や利用者を想定しながら標準化を図り、汎用性の高い改造キット（半完成品）を作りました。

<成果>

従来は、個々の自動車ごとにフルオーダーメイドで対応していたため値段も高いものでしたが、標準化することで価格を下げることができました。サイドサポートシートにより、介護者の体力的な負担の軽減はもちろんのこと、費用負担の軽減も実現することができました。



【代表取締役 内藤憲孝さん の話】

私たちのような小さな企業では、自分達で研究開発する資金もあまりないので、この補助金は大変助かりました。

今は従業員が 2 人しかいないため手一杯の状態ですが、作りたいものは山ほどあります。福祉車両を製造したり改造したりする会社は日本には数社しかありませんので、もっと日本中に当社と同じような会社を広げ、技術伝達をしていきたいと思っています。

（企業情報）

名称：有限会社イフ
事業内容：福祉車両、部品の製造及び改造、販売
住所：帯広市西 2 3 条北 2 丁目 1 1 - 1 4
設立：平成 15 年 10 月
代表者：代表取締役 内藤憲孝
資本金：700 万円
従業員数：2 名

電話 0155-38-8380
FAX 0155-37-3009
Eメール info@e-if.jp
URL <http://www.e-if.jp>

④ 北裕建設株式会社

<年度> 平成 20 年度

<事業名> 無精製廃油ボイラーの開発・改良と製品化

<きっかけ>

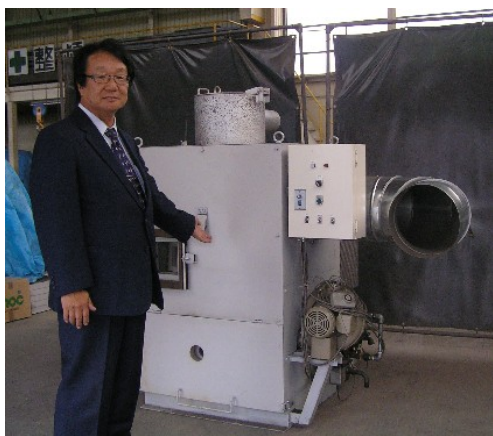
無精製廃油ボイラーは、知人が 10 年ほど前に開発途上であったものでしたが、近年の燃料価格高騰により、再度開発しようと決意しました。

<内容>

補助金を使用した事業では、近年の燃料の高騰による、ハウス農業や工業等への影響を軽減するため、破棄されるエンジンオイル等の廃油を燃料とした「廃油ボイラー」を専門家の協力を得て開発しました。

<成果>

廃油を使用するため燃料費を抑えることができるようになりました。従来の廃油ボイラーは、不完全燃焼を防ぐため不純物をろ過させる必要がありましたが、このボイラーはろ過しなくても完全燃焼させられる仕組みを実現しました。このため、不純物の排出量も少なく、燃料効率も従来の灯油ボイラー以上の性能を発揮させることができました。



【代表取締役 徳井裕信さん の話】

第1ステップとして良い製品が完成しましたので、今後は第2ステップとして展示会などに出展して認知度を上げるとともに、お客様（ユーザー）の声を聞いてさらに使いやすいように改良を加えて、ニーズに合わせた製品にしていきたいと考えています。

（企業情報）

名称：北裕建設株式会社

事業内容：土木建築一般、無精製廃油ボイラー、畜産排水システムの販売

住所：帯広市西12条南28丁目35

設立：昭和38年12月

代表者：代表取締役 徳井 裕信

資本金：2,000万円

従業員数：10名

電話 0155-47-4156

FAX 0155-47-4312

Eメール hokuyu@hokuyu.org

URL <http://www10.ocn.ne.jp/~hokuyu/>

⑤ 株式会社アクト

<年度> 平成 20 年度

<事業名> 活性炭と特殊セラミックを用いた浄化システムの確立と販売促進

<きっかけ>

北海道ならではの課題として、農家で排出された牛乳のろ過処理という問題がありました。従来の排水システムでは、牛乳はろ過できないものという考え方が主流でしたが、なんとか解決できないかという思いで、研究開発に着手しました。

補助金を使う以前は、研究開発はすべて自社で捻出してやっていましたが、「そこまで熱心に研究しているなら補助金を使ってみてはどうか」とある人に勧められたのがものづくり補助金を使ったきっかけです。

<内容>

北海道産の石炭に加工を加えたものを使用し、より安価で高性能なパーラー排水処理システムの開発を行いました。また、展示会への出展、市場調査をするとともに、カタログを製作し全道、東北地方の農協などへ発送、販路の開拓を図りました。

<成果>

微生物による自然の浄化作用を実現することで、従来に比べ小規模な浄化槽（従来比 1/2）で十分な処理システムを構築できました。小規模なため、設置コストも削減させることができました。また、講習会での啓蒙活動により農家の環境問題に対する意識レベルの向上が見られ、道外からの受注もありました。



【代表取締役 内海洋さん の話】

もともと浄化槽のメーカーではないので、製品に対する固定観念がありませんでした。そのおかげで、従来にはない発想の製品、つまり牛乳もろ過できる排水システムができたと思っています。

今後は畜産関係だけでなく工場から出る排水向けにも営業販売をしていきたいと考えています。

(企業情報)

名称：株式会社アクト

事業内容：土木建築一般、農業施設、畜産排水システムの販売

住所：帯広市西 2 1 条南 4 丁目 21-5

設立：平成 9 年 1 月

代表者：代表取締役 内海洋

資本金：2,500 万円

従業員数：18 人

電話 0155-41-4510

FAX 0155-41-4520

Eメール：act@bz01.plala.or.jp

URL <http://www.act-hokkaido.com>

